

一般質問（令和8年第2回定例会）

質問者	質問事項	質問要旨
川浦 雅子	1. 子育て支援策の拡充について	1. 中学生の修学旅行費について ・子育て支援策のひとつとして、修学旅行費用の保護者負担軽減に取り組む考えはあるか、町の考えを伺う。
	2. 聞こえの確保による認知症予防の取組について	1. 補聴器助成制度の導入について ・高齢化の進展に伴い、高齢期に難聴を抱える方が増加している。聞こえの低下は、日常会話や社会参加の機会を減少させ、孤立を招く要因となるほか、認知症の発症リスクにも影響を及ぼすと指摘されている。 こうした状況を踏まえ高齢者の生活の質の向上と認知症予防の観点から、老人性難聴のある方を対象とした補聴器購入費助成制度を導入する意義は大きいと考えるが、町の考えを伺う。
	3. 包括的性教育の理解について	1. 誤情報から住民を守る ・SNSの普及により性に関する誤情報が氾濫する今、全世代へ信頼できる情報を届けることは喫緊の課題です。学習指導要領の「はじめ規定」に捉われず、人権尊重やジェンダー平等の視点を養い、暴力の被害はもとより加害も防ぎ住民の健康を護る「包括的性教育」の実践が不可欠と考える。 そこで、子どもから大人までが正しく学ぶ生涯学習の機会を創出し、理解を広める取組みについて町の考えを伺う。
新井 太一	1. 地域福祉の推進について	1. 地域での支えあいの強化について ・高齢者福祉計画、第9期介護保険事業計画では、地域包括ケアシステムの拡充について、高齢者を地域全体で支える体制の充実がうたわれているが、介護保険対象外サービスや保険の適用除外者に対して、社会福祉協議会等と連携して地域福祉の推進にどのように取組み、現時点の評価をどう行っているのか伺う。

新井 太一	2. こども医療費代行申請について	<p>1. 県境医療における、こども医療費助成の課題と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神川町の18歳未満医療費助成制度は、県内医療機関では現物給付が可能である一方、県境地域という地理的特性から受診頻度の高い群馬県内医療機関では、一時立替と後日申請を要する仕組みとなっている。これは保護者にとって経済的・事務的負担となっており、制度の公平性や利便性の観点からも課題である。 また、既存の一部申請代行制度についても周知が十分とは言えず、実際の利用状況や効果が見えにくい現状にある。 そこで、これまでどのような検討や県との協議を行ってきたのかを伺うとともに、今後、県を跨いだ協定拡充、現物給付導入、広域連携の可能性、さらには当面の運用改善策について、町としてどのような課題認識を持ち、どのような解決策を想定しているのか、見解を伺う。
柴崎 愛子	1. 住民の健康増進と地域コミュニティの強化について	<p>1. 健康長寿につながるニュースポーツ導入の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県伊勢原市の老人クラブ連合会で、漬物石を使ってカーリングを模したスライドストーンで健康長寿に成功している。 競技を行うレーンは、農業用防虫ネットを利用し手作りし、作り方は伊勢原市老人クラブ連合会のホームページで公開している。 この取組は、健康増進とあわせて、幅広い年齢の人達が参加できコミュニティの活性化に寄与するものと考えているが、スライドストーンゲームを導入する考えはあるか、町の見解を伺う。
坂本 貴佳	1. 神川町の知名度向上について	<p>1. 神川町における脱炭素化の加速と公共資産の有効活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神川町の知名度向上の方法として、環境に優しい町として、CO2削減施策・方針について伺う。

野口 弘吉	1. 町政運営について	<p>1. 2期目のスタートにあたっての推進施策について 町長が掲げる主要施策の具体的な展開と、将来展望について以下の項目に沿って伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育料完全無償化や教育環境の整備 ・デマンド交通実証実験や高齢者の生きがいづくり ・空き家や遊休農地の抑制、解消など環境、防災対策 ・持続可能なまちづくりの実現に向けた取り組み
福島 康弘	1. 下水道の将来像について	<p>1. 次世代のための備え 特定環境保全公共下水道事業は、人口減少や脆弱な財務状況がみられ、将来的な事業継続性に課題を抱えている。南伊豆町では集約型下水道を廃止し、合併浄化槽へ転換する判断がなされた。神川町においても20年先を見据え、継続か転換かを含めた判断を始める時期に来ているのではないかと。町長の認識と方向性を伺います。</p>